

科学教育研究センターのさらなる発展を祈念して

愛媛大学教育学部附属科学教育研究センター長 向 平和

令和3年度に発足した愛媛大学教育学部科学教育研究センターのセンター長を拝命しました。これまでの3年間にも様々な状況の変化があり、本センターの果たす役割は大きくなっていると感じています。特に科学技術振興機構（JST）の実施しているスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業においては愛媛県内のSSH指定校が3校とも継続の申請が採択され、それぞれの特徴をさらに発展させています。また、グローバルサイエンスキャンパス事業およびジュニアドクター育成塾事業は次世代科学技術チャレンジプログラムに統合され、愛媛大学グローバルサイエンスキャンパス（e-GS）はその高校型に採択され、四国型次世代科学技術チャレンジプログラム（SHIN-GS）として愛媛モデルを四国モデルへと発展させています。愛媛大学ジュニアドクター育成塾は統合される前年に第2期が採択され、SHIN-GSと連携を強めながら地域の人材育成に寄与しております。

また、平成26年より実施しているえひめサイエンスリーダースキルアッププログラムは、来年度に10年目の節目を迎えます。本プログラムは、JST事業の中高生の科学研究実践活動推進プログラムに採択され3年間の助成期間終了時に最高評価をいただき、現在も愛媛県教育委員会、愛媛県総合教育センター、愛媛県高等学校教育研究会数学会・理科部会と共同で継続しています。本プログラムで課題研究の手ほど

きを受けた教員が、それぞれの学校で高校生の課題研究を指導し、たくさんの成果を出しています。また、学校単位での課題研究の推進にもつながっており、高校生の生き生きとした発表をえひめサイエンスチャレンジ（発表会）で参観することが年度末の私個人の楽しみになっています。愛媛大学教育学部の本務である教員養成にもこれらの事業を活用し、子どもたちの個別最適化した学びにもつなげることは、学生にこれまで学校現場で実践力を学ばせるということから、さらに先を見た教員養成につながる可以考虑と考えています。

また、本センター紀要には附属学校の先生方にもご投稿いただいております。本号から活動報告を掲載することにいたしました。さらに附属学校との連携を深め、学校現場に還元していくことを目指していきたいと考えています。

愛媛大学は全学組織として、次世代科学人材育成室を令和4年度に発足しましたが、令和6年度から次世代人材育成拠点として科学人材のみならず、すべての領域を含めた地域の人材育成に焦点をあて、次世代人材育成とその育成に関わる学校教員等への支援を含めて地域人材の育成を担う全学組織へと発展して改組します。地方から次世代人材のモデルを発信し、愛媛県はもちろん、日本、世界へと本学の成果を発信していくことが教育に対する価値観など転換するきっかけになるのではないかと期待しています。

